

問題3 の別解

銅賞

千葉県立浦安南高等学校

たきざわ ひろし
滝沢 洋

(答えの幾何学的解釈)

平面 $x+y-\frac{1}{\sqrt{3}}z=0$ の法線ベクトルの1つを、 $\vec{n}=\left(1, 1, -\frac{1}{\sqrt{3}}\right)$ とする。また、原点 O を通り、この法線ベクトル $\vec{n}$ を方向ベクトルにもつ直線を l とする。

さて、

$$\left(\frac{1}{2}x+\frac{3}{4}y+\frac{\sqrt{3}}{4}z\right)+\left(\frac{1}{2}y-\frac{\sqrt{3}}{2}z\right)-\frac{1}{\sqrt{3}}\left(-\frac{\sqrt{3}}{2}x+\frac{\sqrt{3}}{4}y+\frac{1}{4}z\right)=x+y-\frac{1}{\sqrt{3}}z=0$$

が成り立つので、点 $P(x, y, z)$ が平面 $x+y-\frac{1}{\sqrt{3}}z=0$ 上にあるとき、

点 $R\left(\frac{1}{2}x+\frac{3}{4}y+\frac{\sqrt{3}}{4}z, \frac{1}{2}y-\frac{\sqrt{3}}{2}z, -\frac{\sqrt{3}}{2}x+\frac{\sqrt{3}}{4}y+\frac{1}{4}z\right)$ もこの

平面上にある。

同様に、点 P が平面 $x+y-\frac{1}{\sqrt{3}}z=d$ 上にあるとき、点 R もこの平面上にある。

一方、 $\vec{n}$ と $\vec{OP}$ のなす角を θ 、点 P から直線 l に下ろした垂線の足を H とすると、

$$\begin{aligned} PR &= \sqrt{\frac{7}{4}-\frac{3}{4}\left(x+y-\frac{1}{\sqrt{3}}z\right)^2} \\ &= \frac{\sqrt{7}}{2} \sqrt{1-\left(\frac{\sqrt{3}}{\sqrt{7}}x+\frac{\sqrt{3}}{\sqrt{7}}y-\frac{1}{\sqrt{7}}z\right)^2} \\ &= \frac{\sqrt{7}}{2} \sqrt{|\vec{OP}|^2-\left(\frac{\vec{n}}{|\vec{n}|}\cdot\vec{OP}\right)^2} \\ &= \frac{\sqrt{7}}{2} |\vec{OP}| \sqrt{1-\cos^2\theta} \\ &= \frac{\sqrt{7}}{2} |\vec{OP}| \sin\theta = \frac{\sqrt{7}}{2} PH \end{aligned}$$

と変形できる。

以上により、本問のイメージを図示すると、右のようになる。

西瓜の切り身を考えるとわかりやすい。

最後に、点 P が単位球面と直線 l との交点 $\left(\pm\frac{\sqrt{3}}{\sqrt{7}}, \pm\frac{\sqrt{3}}{\sqrt{7}}, \mp\frac{1}{\sqrt{7}}\right)$ となるとき、 PQ は最小値0となることもわかる。

